

市民懇談会・団体別懇談会のまとめ

市民懇談会

地域	会場	日程	時間	参加人数
玉縄地域	玉縄学習センター 第2集会室	8月14日 (木)	14:00～15:30	1
深沢地域	深沢学習センター 第3集会室	8月22日 (金)	10:00～11:30	4
鎌倉地域	鎌倉市役所 822会議室	8月23日 (土)	10:00～11:30	8
腰越地域	腰越支所 多目的室	8月27日 (水)	14:30～16:00	7
大船地域	大船学習センター 第2集会室		19:00～20:30	3
計				23

団体別懇談会

番号	団体名	日程	時間	参加人数
1	かまくら子育て支援グループ懇談会	9月17日 (水)	9:30～11:00	29
2	鎌倉私立幼稚園父母の会連合会	9月18日 (木)	10:00～11:30	23
3	梶原の森たんぽぽ保育園保護者会	9月19日 (金)	17:30～19:00	41
4	かまくら福祉教育ネット	9月22日 (月)	10:00～11:30	9
5	鎌倉市保育園保護者連絡会(鎌倉)	9月25日 (木)	18:00～19:30	12
6	ピヨピヨ保育園保護者会	9月27日 (土)	10:00～12:00	20
7	鎌倉市保育園保護者連絡会(大船)	9月29日 (月)	18:00～19:00	4
8	たんぽぽ共同保育園保護者会	9月30日 (火)	18:30～20:00	35
計				173

## 身近な居場所について

子どもをつれて散歩をしてもなかなか、子どもづれに会えない。子育て支援センター等まで行けば会えるが、なかなか身近なところでお友達作りをすることが難しい。

仕事を辞めたり、一時的に仕事を休んでいる親にとって、情報共有の場は必須なので、もっと身近に集える場所（車等でいける便のいい場所）を充実させてほしい。

レイウエルが閉まってから、福祉センター（鎌倉）などを使ってみたが狭くて使いづらい。深沢の支援センターや玉縄のつどいの広場も使ってみたがやや行くのに不便なので早く大船子育て支援センターを再開してほしい。

岩瀬の方に住んでおり、レイウエル鎌倉を使っていたが片道30分くらいかかってしまい栄区にある施設の方がいきやすかった。身近な場所に支援センターがあるといい。

鎌倉は、外遊びをしている子どもが少ないと思う。ボール遊びが出来る公園が少ないことももちろんだが、学校の校庭もサッカーや野球の練習で使われてしまうと一般の子が使えない。

小学校の放課後の開放についてもっと推進して行ってほしい。

学童や子ども会館は、大きい子がのびのびと遊べるような場所ではない。小学生が思い切り走りまわられる場所、幼稚園児が安全・安心していられる場所など子どもの年齢に応じた居場所が必要だと思う。

子どもの居場所という点に関して、居場所というのは子どもがひとりで行ける場所だと思う。第1小学校区に住んでいるが、子ども会館が遠い。子ども会館のような立派な施設でなくても良いので、近所に子どもが遊べる場所を作ってほしいと思う。

子ども会館について使いづらさを感じている（学童の時間が近くなると追いやられるように感じる。お昼の時間以外の補食が認められていないなど）。

他市では子どもの家の中にプレイパークがある場所もある。いつ行ってもだれか大人や子供がいて遊びを展開できる常設のプレイパークが鎌倉にも必要だと思う。

鎌倉に住んでいながら、周りに良い遊び場がないと他市に行ってしまうことがある。せっかく自然が豊かなのにもったいない。

子どもの居場所をもっと充実してほしい。幼稚園だと長期休暇が結構長いですが、その際公園に連れて行くと、小学生がボール遊びをしていて危ないから遊べない。子育て支援センターやつどいの広場に行くと、赤ちゃんばかり。そういう意味では幼稚園児が幼稚園以外の時に過ごせる場所がかなり少ないと思う。

図書館や支所にキッズスペースがあると思うが、もう少し拡張したり、雨の日に幼稚園のホールを貸し出してもらう際に助成するとか幼稚園児の居場所に対する配慮をしてほしい。

本郷台にあるアースプラザのような場所が鎌倉にもあるといい。

## 公園について

公園の広さや充実という以前に、まず子どもが集まらないという現状がある。

公園に行っても他の子どもがいないという話をよく聞く。子どもとの過ごし方の選択肢が増えている(プールや施設等)中で、「公園」という選択肢が占める割合が減っているのではないか。そのため、公園で他の子どもに会えないのでは。

小町に住んでいるが、近くの遊べる公園となると、海浜公園まで江ノ電で行っている。主人がいて車が出せるときは横須賀の方の公園に遊びに行っている。鎌倉駅周辺に遊べるような公園があるといいと思う。

岡本に住んでいる。午前中は図書館午後は児童公園にということをしているが、できればボールを思い切り投げることが出来たり、芝生で寝転んだりできる場所があればと思う。

狭く遊具が少ないことを考えると、子どもが大きくなると公園では遊びづらい。下が芝生だったり土だったりする広い場所があると子どもと一緒にいろんな遊びが出来ると思う。

市内で5歳くらいの子が遊べる公園があまりない。あっても遊具が充実していないし、管理も行き届いていないように感じる。

多くの公園で遊具が危険で使えなかったり、撤去されていたり、遊べない公園になっている気がする。遊具が充実して子どもがのびのびと遊べる公園が1つでもあるとよい。

自転車の練習ができる公園、ボール遊びができる公園、など目的に応じた公園とその一覧をつくってほしい。

お年寄りが増えている中で、子どもが公園で遊び辛くなっている(うるさくできない。ボールで遊べない等)。子どもがのびのびと活動できるような広場が必要だと思う。

## 地域や異世代等との交流について

「地域で育てる」ということを考えると、もっとお年寄りとの関わりがあった方がいいのではないかと。幼稚園や保育園でお年寄りとの交流をしてお互い元気になったという話は耳にしたことがある。

子育て生活への満足度は、子どもの環境を整えるだけでは上がらないのではないかと。親自身の子育てに対する気持ちを育てることや、祖父母とのかかわり方など、世代を超えて考える必要があるのではないかと。

放課後の空き教室が使えるようになったら、高齢者など地域の人を巻き込んでいけると、地域とのつながりを持てるようになっていいと思う。核家族化する中で異世代との交流する機会を持った方が、人間として厚みが出ると思う。

放課後余暇支援も学校でできると人の広がりが出ていいと思う。

地域での個人同士の付き合いというのは多少あるが、もっと大きな規模でやれたらと思う。そのような場を設定し実行するコーディネーターのような機関があるといいのではないかと。

前住んでいた市では、新興住宅地の近くにできた公園などに、昔からその場所に住んでいる高齢者の方々が来ていて、子どもを見守ってくれる環境があった。子供も遊べるし、高齢の方も来る、そういった異年齢の関わりが出来るといい場所が鎌倉にもあってほしい。

子どものころから身近に障害者のいる環境で育つと小学校に入学してからも自然に気を配れるようになって聞いている。障害者への理解を深めるためには子どものころから障害者との生活を体験をしていることが効果的だと思う。

安全・安心ということに関しては、パトロールの強化も大事だが、その地域に住んでいる人がその地域のことを知っているということが一番なのではないかと。その点で公園などで異年齢が集える場というのは必要だと思う。

## 幼稚園・保育所・子どもの家(学童)等について

保育園の1歳児の入園の競争率が高いため本当は子どもと関わりたくても、育休を早めに切り上げて0歳児の早いうちから預ける親もいる。

育休復帰後の保護者はパートタイムの希望者が多い。その中で短時間認定の延長保育における利用料もそうだが、時間の融通が利く施設を増やしてほしい。

保育環境の整備について受入数が増えきているが、今後は数だけではなく1園当たりの保育士の配置を増やすなど保育の質も確保してほしい。0～1歳児というのは特に保育の質が求められるため、地域型保育事業では保育に携わる人の質をしっかりと確保してほしい。

短時間就労(認定)の人は8時間を超えると延長保育になるが、短時間就労の人はそもそも収入が少ない。延長保育がかさむと保護者にとって不利益になる。短時間就労の人に対する配慮をしていただきたい。

施設整備の計画を立てる際には、地域性に合わせた計画を立てていただきたい。大船・深沢地域は幼保ともに充実していると感じるが、鎌倉地域は幼稚園が多い一方で保育所が極端に少ない。地域性に合わせて柔軟な計画を立ててほしいと思う。

今後子どもが減ってくるという中では、地域の細かいニーズに応えるような、地域型保育事業を充実してゆくのよいか。

保育所の入所決定の時期をもう少し早くできないか。育休の延長というのはそんなに簡単にできるものではない。

学童について過密で危ないという話を聞く。障害児も預かる場合がある以上、●●人以上の施設にはプラスで●●人配置など鎌倉独自に指導員の配置を増やすようなことをしていただくと安心して利用できる。

学童に籍のあるお子さんが、障害があるということで毎日預けられなかったり、プールに親がついていく必要があったりすると聞いた。受け入れ態勢に障害のあるお子さんをあわせるのではなく、その子にとって望ましい環境を用意できるようにする必要があると思う。

学童を今後作るにしても場所の問題があるとは思う。学校の空き教室を使ってやることはできないのだろうか。

子どもの家に通わせていたが、狭かったり自由に遊べなかったりで、1年経たずに行かなくなってしまった。鎌倉は土地が少なく公園の整備は難しいと思うので、その分学童・子ども会館を子どもがのびのび遊べるような場所にしていく必要があるのではないか。

他市では放課後の空き教室を利用した事業がある。学童に通ってる子どもでなくても使えるというところに非常に魅力があるので鎌倉市でも取り組んでほしい。

学校内にある子どもの家というのは必ずしも恵まれているとは限らない。子どもが気持ちの切り替えをすることができず、ほっとできない場合もある。

学童保育がいっぱい入れなかった。パートタイムなので、放課後少しの時間を預かってもらえるような場所が欲しい。

現在子どもの家は室内にずっといるような状況があるが、近くのグラウンドが使えたり外に出て活動することが出来るようなればいいと思う。

保育園に通っている子どもが増えてきている中で、今後その子たちが年齢が上がった際の受け皿として、学童などの施設整備を急ぎ青少年育成に今後力を入れて欲しい。

子どもの家でもう少し長く預かってもらいたい、都内に勤めている場合だと早く帰ってきて19:00を過ぎてしまう。

地域の大人が、空き店舗等を利用して少人数を対象にする学童クラブのようなものはできないか。子どもを見守りたい大人は結構いると思うので、地域の力の掘り起しを図ってほしい。

預かりの場としてだけでなく、子どもの「居場所」としての預かりのニーズが高まっている。

あおぞら園通園のお子さんについて現在あまりに個別対応の時間が短いという話を聞いている。小さい頃からの早期療育ということであれば、もっと子どもをよく見てもらって、その子にあった対応をしてもらう必要があるのではないか。

あおぞら園と保育所や幼稚園との併用のお子さんについて、あおぞら園での療育と、保育所や幼稚園に行ったときの教育や保育についてもっと連携が取れると良いと思う。

## その他

施設や居場所の数を増やすことも大事だが、質が追いつかないと意味がない。「子どもが健やかに育つまち」を目指す以上質は欠かせないものだと思う。

他市では魚釣りや地引網の体験などが出来るが、鎌倉市でも「海で遊ぶことや山で遊ぶ」という選択肢をもっと取り入れていく必要があるのではないかな。

山遊びということに関して、最近は崖すべりがやれる場所が少なくなっている(木の根が痛むなど)。本当はそういうのが出来ればいいと思う。

子どもを外で遊ばせるような活動をしているところに対して補助するなど「子どもを外で遊ばせる」ということにもっと鎌倉市としても重きを置いてほしい。

仕事と子育てのバランスが子育て子育て生活の満足度につながると思う。子どもとずっと1対1もきついが、仕事に追われて子どもと関わる時間が少ないのも、ストレスになる。子育て・仕事・自分の時間がバランスよくできると満足できるのではないかな。

鎌倉らしさということを考えるときに、必ずしもフルタイムや専業主婦(夫)というわけではなく、フリーランスの人も多いと感じている。多様な働き方が出来る環境の整備ということに関していえば、そういった「保育所・学童に預けるほど働いていない人」の視点で居場所(子ども会館等)の整備・充実が求められるのではないかな。

フルタイムで働こうと思っても、「子どもがいる」という理由で断られるてしまい、パートタイムやアルバイトで就労している人もいる。

短時間であろうと就労は疲れるものである。主婦の方は仕事から帰ってから食事の準備や洗濯などがある。男性が育児参加すると言ってもできることは限られているのだから、「女性に優しい保育」を鎌倉は目指してほしい。

保育園を建設する際には周囲の住民の理解を得ることがなかなか難しいと聞いているが、もっと子育て世帯を社会全体で支えるようになってほしい。

育休からの復職の際の会社の理解が低い。子どもが突然病気になり、保育所に迎えに行くために早退する際に、会社の上司とのトラブルがあった。子どもを2人・3人と持ちたいと思っても、会社の上司の理解がないと育てていくのはきつと感じた。

訪問型の一時預かりの実施の検討をお願いしたい。家庭で子どもを育てている方には強い味方になる。

子育てに対する満足度が下がった原因については、急に必要になった時に使いたい事業の使いづらさによる部分があるのではないかな(一時預かりをやっている園に問い合わせたが、使えなかったなど)。

病後児保育のハードルが高いのももう少し使いやすくしてほしい。

病児保育がないと、会社を長期間休むことになり、仕事を辞めざるを得なくなってくる恐れがある。大きな病院と連携して実施するなどしてほしい。

病後児保育について今後発展していく見込みあるか。病児保育が出来るようになったり、預かりの時間をもう少し長くしたりするなどはできないか。現状18時までの預かりだったかと思うが、なかなかその時間に帰ってくることは難しい。

働いている親にとって、子どもが熱を出したりした後、元気にはなったけど保育所には行かせられないときに預ける場所というのは必要なので、病後児についてももう少し充実して欲しいと思う。

子どもと関わる時間は楽しいが、家事などに追われて関われないことがあるため、家事支援も充実させてほしい。

市内の働いていない保育士に少し(短い時間・期間)預かってもらえるような仕組みが欲しい。

子どもが小さい頃に体調を崩し、ナビののっていた休日夜間急患診療所にいったが「この状態の乳児を診ることはできないので藤沢市民病院に行くよう」に言われた。「鎌倉では緊急時に頼れる場所が無い」と不安になった。子どもが緊急で医療に掛かりたいときに、電話で相談できたり、実際にどこに行けばいいか案内してくれる窓口などの体制を作ってほしい。

待機児童について、入れなかった人の追跡調査を行い市が現状を把握する必要があるのではないかな。

待機児童になっている人の追跡調査や、その人の職業など細かい分析を出して、傾向を公表するべきではないかな。

待機児童に対して他市はケアが行き届いていた、手本としてほしい。

待機児童の定義というのを待機児童数の発表の際の数値につけて欲しい。他市との比較がしづらい。

障害のあるお子さんというのは教育と福祉のはざまになってしまう場合がある。障害児施策について一元化し、トータルな視点で支援をしていくことはできないか。

障害者(児)への理解への啓発の課題として、いくらやっても関係者しか来ないという現状があり、本当に来てほしい人たちに来てもらえない。防災メールのようなもので「～週間」という形で、啓発していくことはできないか。

障害児を連れていくには、児童相談所が遠い。福祉センターに出張という形はできないだろうか。

乳幼児健診実施日や市で行う親子向けイベントについて、土日にもやってほしい。平日は勤務を休むことが難しい。

鎌倉女子大学と連携をとり（保育所の1 dayインターシップなど）、卒業生の保育士を確保できるような体制を整える必要があるのではないか。

保育園の給食は栄養バランスがとれていて大変ありがたい、子どももよく食べているみたい。

産後の訪問とか医療費の補助は非常に助かっている。新制度になってもこれらは維持してほしい。

家庭での教育の在り方を見直すべきではないか。

子どもとのかかわり方がわからない親が増えている。

身近な場所で収穫できる果物などを安心して食べられるよう、放射能測定が無料でできるような仕組みがあればいいと思う。

「引きこもり」というのは日本独特のものである。それだけ子どもが追いつめられているということだし、そのことを重く受け止め、「日本の子どもたち」が危機的な状況にあることをもっと周囲に理解してもらう必要がある（ひいては他の部署に発信してお金を要求するくらいの気持ちが必要）。

現行の計画について、「鎌倉」というワードが出ていないのが残念。郷土愛というか鎌倉を愛するというか、鎌倉に生まれてよかったまたここに帰って生活したいと子どもに思ってもらいたい。

計画の理念について「まちづくり」という言葉だと狭いのではないか。「社会づくり」とか「環境づくり」といったもう少し大きな視点がしっくりくる場合もあるのではないか。

鎌倉らしさは、場所によるけれどもお祭りとかお寺とかではないかと思う。